

令和5年度

病害虫発生予察情報

第 16 号

注意報第6号

北海道病害虫防除所 令和5年(2023年)8月25日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

全道の小豆にマメノメイガが発生 今後も莢被害の拡大に注意！

本年、8月上旬より長沼町、芽室町、訓子府町の農業試験場内小豆ほ場において、ノメイガ類による莢や花の食害が多く確認されました。幼虫の形態的特徴からマメノメイガ幼虫による被害が主体であることが分かりました。また、8月中旬以降は、全道各地の生産ほ場で広く本種の発生が確認されているところです。

マメノメイガは、小豆・菜豆の害虫として知られ、8月から9月にかけて幼虫による被害が継続します。成虫は莢の基部や柄に産卵し、ふ化後の幼虫は莢内部に食入し子実を加害する他、成長点や茎や葉柄にも潜入します。本種による被害は食入口から褐色の虫糞を多量に排出します。

本種の被害様態は小豆を加害するアズキノメイガに類似しますが、本種は飛来性であることから、例年アズキノメイガの発生が少ない地域でも突発的に発生する恐れがあります。また、この後も世代を繰り返す可能性があるため、被害拡大に注意が必要です。

札幌管区气象台発表の8月22日付け3か月予報によると、向こう1か月の気温は高くなると予報されています。このことから、未だ被害を認めていない地域においても、今後、成虫による産卵や幼虫による加害が活発化することも危惧されます。

以上のことから、ほ場観察につとめ、本種による被害を認めた場合には、速やかにノメイガ類に登録のある農薬を用いて茎葉散布による防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 8月23日現在、長沼町、芽室町、訓子府町の試験場内小豆ほ場において、被害が発生している。訓子府町の無防除の予察ほにおける被害莢率は22.9%であった。
- (2) 8月23日現在、全道各地の生産ほ場においても発生が確認されている。
- (3) 8月22日付け札幌管区气象台発表の3か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高くなると予報されている。
- (4) 休眠性がないと考えられており、今後さらに世代を経過する可能性がある。また、幼虫は移動しながら複数莢を食害すると考えられる。このため、現在被害がない莢や若い莢において、この後、新たに産卵や食害が増加する恐れがある。

4. 防除対策

- (1) 本種については、北海道内での試験事例がないため防除時期及び有効薬剤の知見はないが、小豆のノメイガ類に適用がある農薬(表1)を用いて防除することができる。ほ場観察につとめ、被害を認めた場合は、速やかに茎葉散布による防除を実施する。

表1 小豆のマメノメイガ(ノメイガ類)に対して使用可能な農薬一覧

農薬の種類	農薬の名称	使用方法	希釈倍数	使用時期	散布液量	本剤の使用回数
シベルメトリン乳剤	アグロスリン乳剤	散布	2000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内
エトフェンプロックス乳剤	トレボン乳剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100～300L/10a	2回以内
フルバリネート乳剤	マブリック乳剤	散布	4000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	2回以内
クロルフェナピル水和剤F	コテツフロアブル	散布	2000倍	収穫3日前まで	100～300L/10a	2回以内
シベルメトリン水和剤DF	ゲットアウトWDG	散布	3000倍	収穫7日前まで	100～300L/10a	3回以内
アセタミプリド液剤	モスピランSL液剤	散布	2000倍	収穫14日前まで	100～300L/10a	3回以内
アセフェート水溶剤	ジェイエース水溶剤	散布	1000倍	収穫14日前まで	100～300L/10a	3回以内



写真1: 幼虫



写真2: 食害を受けた子実



写真3: 食害を受けた茎葉及び葉柄

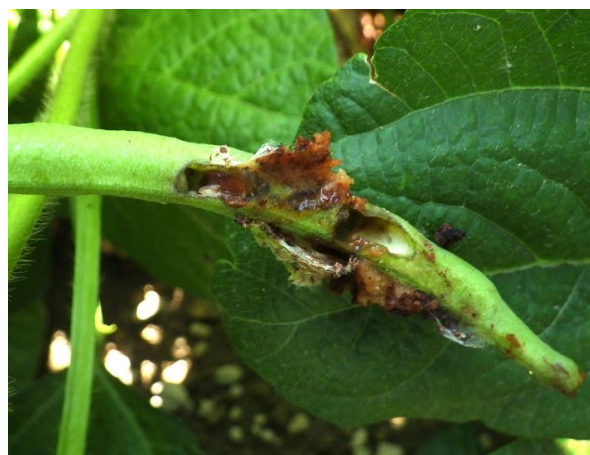


写真4: 食害を受けた莢

(写真1～4はいずれも下間悠士氏 原図)